

平成26年2月号



スクツピーだより



調布市子ども発達センターニュース

TEL/042-486-1190 E-mail/ ayumi@w2.city.chofu.tokyo.jp



子ども発達センター センター長 高橋由美子

2014年がスタートして、早くも2か月が過ぎようとしています。本年も子ども発達センターの運営にご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

先日、『子どもの豊かな心を育む～脳科学からみた「心」・絵本の読み聞かせ・親子のコミュニケーション～』という講演資料を読んで、なるほどと思いましたのでご紹介します。「赤ちゃんに本を読んでも聞いてくれない。」との母の問いに、『実験結果から、生後すぐの赤ちゃんの脳にもお母さんの声が届いているし、背中から読んでも、お母さんの声はちゃんと届いている。そして、親の語りかけは、とても良い刺激になって、「心の脳」に届いている。』と…。絵本を通して、お子さんと過ごす時間は、とても大切なのですね。

さて、まもなく就園・就学の季節を迎えますが、センター事業の利用を終了した後も保護者の方からのご相談お受けしています。ご心配なことがありましたら、いつでもご相談ください。また、「i-ファイル」の活用を通して、保育園・幼稚園や学校との連携・情報共有を更に進め、お子さん一人ひとりの一貫支援に繋げていきたいと考えています。



通園事業あゆみ 園長 小田島朱美

「富士山」が世界文化遺産・「和食」が無形文化遺産に、そしてオリンピック開催地に決定する等「日本」が盛り上がりましたね。日本では季節を色で感じたり、その色にもひとつひとつこまかな名前がついていて、色と風景や出来事を楽しむ心を持っているのだな～「ニッポンっていいな…」と思った、「和食」ではさりげない日常を誉められたみたいで、なんだかとっても嬉しくなりますね。

日頃は見逃してしまうようなことやあたりまえのことに、宝物がありそうです。

ちょっとだけ立ち止まって宝物さがしをしてみませんか。なにかに会えるかも…

私たちは今年もたくさんの「すてき」に出会いました。(ありがとう(*^_^*))!

ひとりひとりが何かに出会え、大切にしていけるものに気づけるよう、私たちがお手伝いできることは何かを一緒に考えていきたいと思えます。

お友だちや保護者の皆さんにとって、ここで過ごした日々が「すてきな出会い」になれるようなあゆみでありたいと思えます。



保護者勉強会の報告

① 6/25 《「発達障がい」が気になる子を伸ばす育て方》 ～気づいてほしい子どもとお母さんの「いいところ」～

講師：（星槎大学共生科学部 准教授）

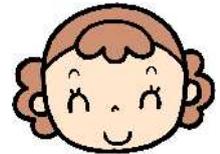
「心のストライクゾーンを広げよう！」をメインテーマに、相手を受け入れる心の幅を広げて、見方を変えると子どもの味方になれると、たくさんのメッセージが込められたクイズを織りまぜながらのあっという間の2時間でした。

子どもが、大人に見守られ支えられていると感じられる安心感を持てる場所（セキュアベース）が必要であり、チャレンジする意欲につながっていきます。

大人が子どもに関わるときのポイントは、誉め方がワンパターンになっていないか、叱る時の言い方、“ふわっと言葉”で声かけをする、大人自身のリフレッシュ時間も大切であるということなどを、教えてくださいました。

優しく心へ語りかけてくれる先生の一つひとつの言葉が、日々子どもへの接し方を振り返り、今日からこうしてみよう！とすぐに活かしてみたくなり、実践的なお話をたくさんいただきました。

子どもの関わりについて、とても参考になるお話でした。できないことを努力させるより、得意なことを伸ばせるように“見方を変える”“ふわっと言葉”を心がけたいと思いました。



参加した保護者の感想

② 10/25 《子どもの育ちに寄り添うこと》

講師：（発達センター心理士）

子どもの育ちは、誕生の瞬間から始まるものであると、1人の人間として関わっていく大切さを心理士の立場からお話ししてもらいました。育てる立場の大人として多くの発見のある勉強会でした。

乳児期の発達には、日常的に受ける世話や人に甘えることなどで信頼することを学んでいく時期です。

幼児期の発達には、身辺自立を獲得していくことで自信をつけていく、小さな我慢を少しずつ積み重ねることをしていく時期です。

発達には、順序性や個人差があります。“才だから する”ではなく個々に見合った関わりをし、育ちに寄り添うことが大切です。個々の伸びしろに肯定的に注目する・安心して失敗できる・子どもの選択を見守っていくことで、子どもは自己肯定感を持ち続けられ、これが子どもたちの育ちを支えるために大切なことなのです。

寄り添うということの意味を改めて学びました。



参加した保護者の感想

子どもの言動にイラッとしてしまう自分が辛かった。そんな気持ちを元気にしてもらえるお話でした。子どもの伸びしろを信じて、見守っていきたいと思いました。





③ 12/3 《きょうだい支援について》

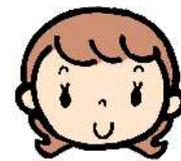
講師：（明星大学人文学部教授）

昨年に引き続き、先生にお話をいただきました。きょうだいの話の前に、家族のバランスとは？子どもにとって必要なこととは？親にとって必要なことは？と普段なかなか思い返さないけれど、実は大事であるということをお話していただきました。

“きょうだい”の立場のお子さんになりやすい性格・行動のパターンをご紹介していただきましたが、どのタイプのお子さんにも共通する支援は「家族の機能を健全化する」「子どもが子どもらしく成長するために必要なことを提供する」ということでした。

家族とは？というとても難しい話に聞えますが、日々の中で思い出していただくと役に立つ関わり方などアドバイスもあり、先生自身の経験談も交えながらのとても楽しいお話でした。

きょうだいにどう関わっていけば良いか
分からず悩んでいた。参考になるお話を
たくさん伺うことができました。
きょうだいの子育てヒントをもらいました。



参加した保護者の感想

今年度は、3つのテーマで勉強会を実施しました。たくさんの保護者の方に参加していただき、ありがとうございました。

来年度も、いろいろと勉強会を企画していきますので、「こんなテーマで聞きたいな」など、保護者の皆様からもご意見を聞かせていただけたらうれしいです。

また、参加もお待ちしていますので、よろしくお祈りします

★専門職の紹介～第2弾～★

前号より子ども発達センターの療育支援に関わっている専門職を紹介しています。
今号は、第2弾として保健師について紹介します。



保健師



保健師は、乳児・1才6か月・3歳児健診の補助業務や、健診での相談担当、お子さんが生まれた後のあかちゃん訪問でお会いすることが多いと思います。

また、保育園では園児の健康管理や、安全管理などを行っています。その他にも、市の保健師としては、高齢者の方のお宅に訪問させて頂き、必要なサービスの検討や、導入のお手伝いをご家族の方と一緒にさせて頂いています。

発達センターでは、健康調査書や保護者のお話を伺い、お子さんがグループ活動を楽しく行えるように、健康面でのサポートをさせて頂いています。また、何か気になることがありましたら、お気軽に声をかけてください。



相談事業について

相談事業では、

お子さんの発達についての相談に応じています。

就学前のお子さんについては、必要に応じてセンターの発達支援事業や通園事業の利用についてご紹介いたします。

お子さんが就学以降も18歳までは、保護者の方の相談をお受けしています。

相談専用電話：042-486-3200

すでにセンターを利用しているお子さんの様々な相談にも応じています。

ご家庭や生活面のこと、幼稚園・保育園・小学校のこと、センターでのこと、また、福祉サービスについてなど、相談担当にもお気軽にお声をかけてください。



就学に向けて



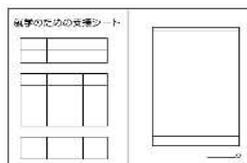
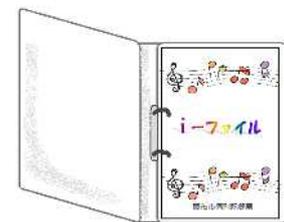
～「就学支援シート」や「i-ファイル」をご活用ください～

「就学支援シート」や「i-ファイル」は、保護者の方が小学校の先生に、お子さんの様子や受けしてきた支援方法等を伝える際に役立ちます。

小学校に入学した際のお子さんの戸惑いを少なくできるように、入学前に伝えることで学校と保護者が一緒に支援方法を考えていくことができます。

「就学支援シート」の原本は、「i-ファイル」に綴じて保管し、学校へはコピーを渡してください。

子ども発達センターで作成した「就学支援シート」については、お気軽に子ども発達センターまでお問い合わせください。



*「就学支援シート」を『提出する、しない』や提出するタイミング等については、保護者の方の意向で決定できます。

❖子ども発達センターでは、“教育相談所の事業である就学相談”や“調布の特別支援教育”などについて保護者の方に理解を深めていただくことを目的として、就学相談説明会を開催しています。

新年度は5月に開催を予定しています。詳細は、決まり次第ご案内や館内掲示でお知らせいたします。

* 編集後記 *

今年度のスクッピーだよりは、子ども発達センターについていろいろご紹介してきました。また、来年度も続けていきます。お楽しみに！

1年間、皆様にご協力いただきましたこと、改めてお礼を申し上げます。

新しい4月のスタートに向けて、これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

